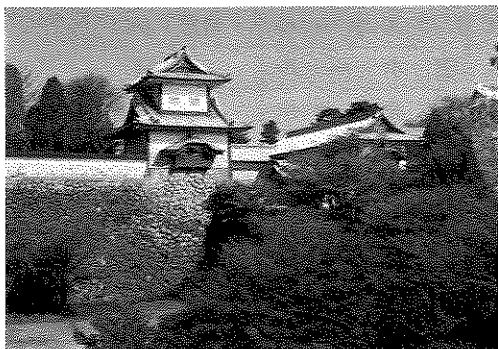
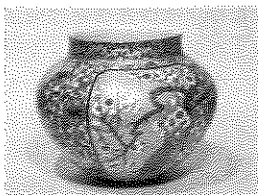


石川県
支部百万石の歴史・
文化の町 金沢江戸末期の武家書院造りをそのまま残す全国
唯一の建物・成巽閣(せいそんかく)

優雅な色彩の九谷焼



加賀百万石の居城であった金沢城石川門

馬上姿もりりしく、さい配を振り
かざす利家役の中来きよし
—金沢市の県中央公園前

「城下町金沢」「森の都金沢」「古都金沢」「小京都金沢」等々、素晴らしい代名詞のいづれもあてはまる「金沢」。街角には、今でも百万石が息づき、日本三名園のひとつである兼六園や長町武家屋敷跡など、歴史的遺産はもちろんのこと、鮮やかな色彩に彩られる加賀友禅・九谷焼・大樋焼といった、伝統工芸品が栄え、そして、東、西の茶屋街に代表さ

れる町民文化も栄え、市民の台所と親しまれている大江町市場があり、日本古来の「能」「琴」「茶道」「華道」も盛んな、歴史と伝統・文化に培われた古都金沢である。また、明治の文豪、泉鏡花や市内を流れる犀川をこ

よなく愛した室生犀星、徳田秋声、高浜虚子・年尾父子など、文学にも彩られた町でもある。

兼六園は、江戸時代の代表的な廻遊林泉式庭園で、5代藩主前田綱紀から13代齊泰にかけて造られ、3万5000坪と広大な敷地に池水築山、滝などを設け、その名のもととなった『宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望』の6つを兼ね備えている。園内には、日本最古のサイフォンによる噴水、瓢池や霞ヶ池の徽輪灯籠などが点在している。なかでも灯籠は二本の足で立ち、そのユニークな形で全国的に知られるが、琴の弦を支える琴柱をデザイン化したものということは意外と知られていないようだ。手前にかかる虹橋を琴に見たてており、橋と灯籠によって一つの景色となっ

ている。兼六園周辺には、加賀宝生能の誉れ高い能舞台をもつ能楽堂や、輪島塗、九谷焼など県内の伝統工芸を展示、解説した県立伝統産業工芸館、レンガ造りの建物も美しい県立歴史博物館、県立美術館があり、また、藩主齊泰が真真龍院の隠居所として建てた成巽閣は、江戸末期の武家書院造りをそのまま残す全国唯一の建物である。

人と車が激しく行き交う香林坊という中心街があるが、その昔は金沢城の外門がおかれ堀の役目もしていた。鞍月用水がとうとう流れていたと言う。城が築かれる以前、比叡山の僧、香林坊が還俗して薬種問屋を開いたところからこの地名が起ったと伝えられている。この香林坊から少し離れた所に、西洋文化を取り入れた神門が異彩をはなつ尾山神社がある。オランダ人ホルトマン設計といわれる和・洋・中国風のデザインで、最上部の千面には赤、青など5色のステンドガラスが張られている。かつては神灯を灯し、日本海を行く船の目標にしていたと言う。

毎年6月13日・14日・15日には、市祭「百万石まつり」が開催され、14日は、前田利家公の金沢城入城を再現する百万石行列が市内を練り歩く。今年のパレードの先導隊では、オープンカーで市長や商工会議所会頭、市議会議長、それに振り袖姿のミス百万石の3人が笑顔で沿道の市民や観光客にこたえ、姉妹都市旗やシンボル旗が続き、石川国体、全国身体障害者スポーツ大会のPR隊が本番近しを市民にアピールした。市祭40回を記念して参加した八県警音楽隊総勢329人の軽快な演奏には大きな拍手が送られ、小学生の鼓笛隊や音楽パレード隊も負けじと迫力のある行進

を見せた。行列の主演である前田利家公に、金沢出身の俳優、鹿賀丈史さんを起用して人気が高まった俳優利家公は、今年は、俳優7代目として、歌手でもある中条さよしさんが馬上姿もりりしく、さっそうと武者ぶりを演じた。愛らしい子供やっこ、お松の方、おん年3つで3代藩主利常に嫁いだ珠姫お輿入れ行列、きりりとした加賀八家老の各隊に続き40回目を記念して、利家の出身地金沢ともゆかりの深い、尾張から、信長・秀吉・家康の「尾張の三英傑」が、まげに陣羽織の風格ある武者姿で特別参加し、絢爛な時代絵巻に厚みを加えた。パレードでは、この他、加賀とび、獅子舞、豊年太鼓などが例年にもまして力強い演奏、妙技を披露した。広告パレードでは、18企業、団体が、装飾に工夫を凝らした宣伝カーを連ね、パレードを締めくくった。

加賀百万石の文化遺産を探り、金沢の将来を展望する文化フォーラムや、献花式、献茶式、百万石茶会、包丁式、浅野川灯ろう流し等々、市民が郷土の足元をみつめ直し、楽しいひと時を満喫する40回の節目を飾るにふさわしい多彩な催しが繰り広げられ、最終日には、「新能」が行われ、幽玄の気に満ちた能の世界を堪能することもできた。伝統・文化に根ざした金沢を、また、北陸の商工業の中心としての金沢を改めて印象づけ、初夏の金沢を華やかに彩る「第40回百万石まつり」も静かに幕を閉じた。

また、市民文化祭の一端として、今年は、第2回ピアノコンクールも開催され、他に、声楽コンクール、器楽コンクールも毎年行われている。石川県音楽文化協会には、各団体が所属し、それぞれの分野で活躍し、年末には、地元合唱団と、今や世界的にも有名になったオーケストラ・アンサンブル金沢とによる「荘厳ミサ」・「第九」演奏会が、海外演奏も含めて、約20年続いている。県立美術館ホールでの「ミュージアムコンサート」、県立能楽堂での、オーケストラ・アンサンブル金沢のメンバー等による室内楽中心の「能楽堂

コンサート」、石川県文教会館での石川県出身者による「文教クラックコンサート」、オーケストラ・アンサンブル金沢の定期演奏会等、各種各様に開催され、市民を楽しませてくれる。

この様に、文化的レベルの高い金沢にあって、ピティナ石川県支部は、福田靖子先生のお力添えで発足して以来、はや6年目を迎えた。それまでは、金沢には、ピアノのコンクールというものは無く、ピティナ・ヤングピアニストコンペティションの第1回地区予選を開催したところ、約80名が参加した。翌年からは、約150名にふくれ上り、検定のみ参加者はほんの数名で、ほとんどがコンペティション参加である。近年では、コンペティション参加者も、金沢市内のみならず、七尾・小松をはじめ石川県全域に広がり、「ピティナ」の名前も広く知れ渡って来た。また、ピティナ正会員並びに会員の数も増えて嬉しい限りである。

毎年3月には、地区予選の入賞者による、ピティナ・ヤング・フレッシュコンサートを開催しているが、子ども達の演奏レベルの向上には、驚くばかりである。これも本部から、杉本安子先生、早水和田子先生、奈良場恒美先生等の素晴らしい先生方をお迎えして、課題曲公開レッスンを行って来た賜と思う。

石川県支部会長、川口恒子、副会長、山下成太郎・中村外治、顧問、中山靖子先生、浅尾恵子、大野由加、押田真澄、劔崎知紗子、越川さゆり、東海林也令子、中田佳珠、野村吉和 以上のメンバーで、和気藹々、石川県支部発展のため頑張っている。

(東海林也令子)



1989 PTNAヤングピアニストコンペティション石川県大会



地区予選入賞者による PTNA ヤングフレッシュコンサート

地区予選終了後、審査員の先生方を囲んで



徳島支部

OURとくしま

徳島には、今や日本を代表する盆踊りとなった「阿波踊り」があります。8月12日から4日間、徳島の街は、踊りの渦となります。

「阿波踊り」の音楽は、ハイヤ節の系列の『ぞめき』と言われる三味線、笛、太鼓、鉦による速いテンポのリズムを伴奏にして、関西地方から入って来たゆったりとした調子の『よしこの節』が歌われるのですが、ルーツの全く違う、また静と動という正反対の要素

を持った歌と伴奏が、見事に調和されていると言う点では、音楽的にも素晴らしいものであると大いに自負しています。

また、自由奔放な踊りは、古くは『伊勢おどり』、『組おどり』、

『ええじゃないか』等の影響を受け、発達して来ました。先祖の供養のために踊る、いわゆる盆踊りとは思えない自由でエネルギーなものであったために、しばしば「踊り禁止令」を支配階級から与えられました。その都度、がまん強く耐え忍びながら、踊り続けてきた阿波人のパワーと情熱には大きな感動を覚えます。

毎年梅雨あけを待ち構えていたかのように夕方になると、あちこちの公園やビルの屋上から、本番に向けての練習の音が聞こえて来ます。丁度その頃、コンペティションに参加する人達は、「阿波踊り」のリズムを耳にしながらピアノの練習に励んでいます。

徳島は一年に4日間だけ「踊る阿呆に見る阿呆」になります。「手をあげて、足を運べば阿波踊り」と言われますが、全国の会員の皆様、是非一度はここ徳島にお出かけ下さい。「ピティナ連」を作って一緒に「阿波踊り」

を踊ることが出来たら、本当に楽しいことと思います。

このように、徳島を代表するものは「阿波踊り」と言うことが出来ますが、阿波藍も一方では全国にその名をとどろかせています。

徳島は、蜂須加治政300年の間、藍、塩、砂糖、葉たばこの専売によって徳島城下には富が集まり、政治、文化の中心になって行きました。明治22年に市制がしかれた当時の徳島市は人口が全国第10位の都市であり、徳島城下がいかに栄えていたかが分かります。

特に、阿波の藍染は江戸時代から隆盛を極め、藍で富を蓄えた藍商人によって、阿波踊りや人形浄瑠璃などの伝統文化に援助が行われ、徳島には芸能、文化が大いに発展して来ました。

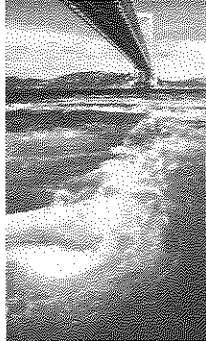
現代では、わずかな藍師によって伝統が守り続けられ、多くの愛好者が全国にいます。また、徳島市制100周年記念事業では、この藍染を利用してニューヨークのデザイナーによるファッションショーが原宿と徳島で開催されました。

藍は、とても繊細で、絶えず藍の色を出すための条件を保たなければなりません。石灰や糖分を加えたり、また気温が低いときは温めたりして、まるで生きもののように工夫を凝らして管理をします。染めては干し、干しては染めるを繰り返すことで、深みのある藍色をつくり出すことができます。

うず潮と聞いたら「鳴門」を思いうかべられることでしょう。

でも、鳴門は、日本で初めて「第九交響曲」が演奏された地であることを御承知でしょうか。

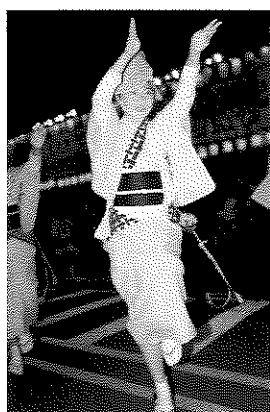
第一次世界大戦でドイツ軍捕虜が、鳴門市板東に収容（953人）されました。ドイツ人捕虜と町民との交流がさかに行われ、貴重な文化が伝えられました。その一つに、楽



ひょうきんな男おどり



あでやかな女おどり





霊山寺で行われた演奏会

団があります。捕虜たちが収容所内で組織した楽団は、たくさんありました。エンゲル楽団、徳島オーケストラ、シュルツ・オーケストラ、マンドリン楽団など、音楽を愛するドイツ人らしく活発な活動が行われていました。

なかでも、パウエル・エンゲル少尉が組織した「エンゲル楽団」は、町民との交流が最も深かったことで知られています。

パウエル・エンゲル氏は、古典音楽に詳しく、ベートーヴェンの研究家でした。四国88ヶ所一番札所「霊山寺」の門前の遍路宿で開かれていた「エンゲル音楽教室」には、地元はもちろん徳島の若者たちも通い、一生懸命練習していたといえます。

そして、当時のプログラムによれば、大正7年6月1日、ドイツ兵士によって、日本で最初にベートーヴェンの「第九交響曲」が演奏されました。

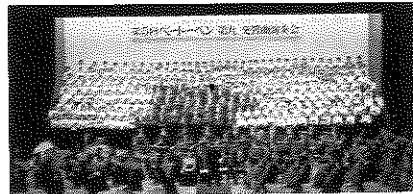
鳴門市では、それを記念して毎年6月第一日曜日を「第九の日」と定め、多くの市民が参加して演奏会を催しています。今年も山本直純氏をおまねきして、盛大に「第九を歌う会」が開催されました。

徳島は、四国山地を背景に、北は瀬戸内海東から南にかけて紀伊水道、太平洋に面し、自然環境の保全されたところでもあります。

特に、吉野川は、「四国三郎」の名で知られる荒れ川であり、この川は、徳島の風土・文化に大いに影響を与えてきました。

吉野川の河口は、川幅1kmにおよび、そのながめは、雄大なものであります。この吉野川の三角洲（デルタ）地帯に発達した都市が徳島市です。現在、水を活かした都市づくりが進められており、市民の憩いの場となっている新町川水際公園があります。

この公園は、四季折りおりのイベントが開催され、昼間は水辺ではしゃぐ子供たちの歓



毎年6月第一日曜日に開催される「第九」演奏会

声が聞こえ、夕暮れのトワイライトタイムには美しい自然の時を感じさせてくれるなど、水を活かした公園づくりとともに、音の演出がされています。公園の一角に、ガラス張りのしゃれたピアノハウスがあり、透明のアクリル製の自動演奏ができるグランドピアノが置かれています。午前10時から午後7時までの一時間ごとに、自動演奏をしています。とりわけ、夕方になるとピアノハウスに明かりがともり、ピアノの音色もいちだんと清澄さを増すようです。

最後に、私たち徳島支部の紹介をさせていただきます。

徳島支部の発会は、1984年1月28日でした。発会までの約2年間は、PTNAの説明や準備のために、PTNA専務理事福田靖子先生に何度も来徳していただき、徳島大学名誉教授保田芳郎支部長のお骨折りによって、やっと支部が発会できました。

発会当時は、会員数1名であったのが、現在60名の会員数をようすようになりました。また、PTNA主催のピアノコンペティションなどへの参加数も、日増しに増加を続け、今年、初めて徳島で四国地区本選を開催できるようになりました。

支部が発会して7年が過ぎ、ますます支部が発展していくよう会員一同がんばっているところでもあります。

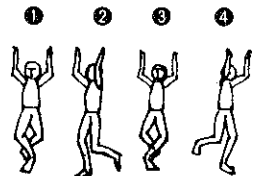
今、徳島は大きく変わろうとしています。平成5年に第48回国民体育大会開催、平成9年明石海峡大橋完成などビックプロジェクトが続いています。そのため、各種施設の充実が図られ文化施設の充実も進んでいます。私たち支部も新しい時代に向けて発展していこうと考えております。

今後とも、皆様の御指導を宜しく願います。

(現徳島支部支部長 安田久美子)
(徳島支部専務局長 吉岡 明代)

踊り方

運長さんのように踊ろうと思うのは欲張りすぎ。“10年早い”って感じ。でも踊り方のコツはあるんです。まず、リズムはゴーゴーと同じ2拍子。両手をあげてリズムに合わせて腰を軸にして1/4回転。左右交互に体重移動させながら足を繰り出せばもう阿波おどりのです。手の甲は外側かやや斜め後に向け、手首は内側に折らないようになどなど……。カッコよく踊りたい方は本場徳島で運長さんのコーチをうけよう。



阿波おどりの実演

「毎日おどる阿波おどり」
期間：春季 4月1日～7月20日
秋季 9月1日～10月31日
場所：駅前アミビル4Fおどりホール
(プラネタリウム館・火曜休演)
時間：午後8時～8時40分
観覧料：510円
本番の阿波おどり
8月12日～15日(4日間)
にわか連：本番の4日間毎日
集合午後7時～9時
集合場所：市役所前広場
新町橋通り(丸新横)

1984.1	徳島支部発会
1984.3	ピアノ演奏検定
1985.4	会員17名
1985.7	第1回
1986.7	第2回 ヤングピアニスト・
1987.7	第3回 }コンペティション徳
1988.7	第4回 }島地区予選
1989.7	第5回
1990.7	第6回
1991.7	第7回ピアノコンペティショ
	ン徳島地区予選
1991.8	ピアノコンペティション四国
	地区本選